第４回
九州地域医療研究会

―地域志向型教育の再考―

日　　時　　平成 26 年 4 月 19 日（土）15：30～

会　　場　　宮崎県企業局　県電ホール

第４回九州地域医療研究会事務局
〒889-1692　宮崎県宮崎市清武町木原 5200 番地
宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座内

第４回九州地域医療研究会　概要

テーマ　　地域志向型教育の再考

当番世話人　　長田直人　（宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座 教授）

日　時　　平成 26 年 4 月 19 日（土）　15 時 30 分～18 時 00 分

会　場　　県電ホール（下部に地図がございます。）
　　宮崎県企業局 1 階〒880-0803 宮崎市旭 1 丁目 2 番 2 号

担　当　　松田俊太郎（宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座　講師）

事務局　　第 4 回九州地域医療研究会事務局
　　〒889-1692 宮崎市清武町木原 5200 番地
　　宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座内
　　TEL　0985-85-9809　　FAX　0985-85-9805

世話人会

日　時　　平成 26 年 4 月 19 日（土）　15 時 00 分～15 時 30 分
会　場　　研究会前に同じ会場で行います。

プログラム　　**１５：００～１５：１０　会長のご挨拶**

九州地域医療研究会　　会　長
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科国際島嶼医療学講座　教授
嶽 崎 俊 郎　　先 生

１５：１０～１５：３０　世話人会

懇親会

時　間　　19 時～
会　場　　鉄板・炭焼・石焼　ほっこり
　　宮崎県宮崎市旭 1-3-12
会　費　　5,000 円

プログラム

１５：３０～１５：４０　　開会挨拶

第４回九州地域医療研究会　　当番世話人
宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座 教授
長　田　直　人

１５：４０～１７：３５　　演題発表　　（発表 10 分　質疑応答 5 分）

【演題１】地域連携を基盤にした地域医療教育と研究～長崎大学の 10 年の歩みとこれから～
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科社会医療科学講座地域医療学分野
門田　耕一郎　先生

【演題 2】九州大学医学部における地域医療実習への取り組み
九州大学大学院医学研究院地域医療教育ユニット
貝沼茂三郎　先生

【演題 3】鹿児島大学の地域医療教育への取り組み
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科離島へき地医療人育成センター
根路銘安仁　先生

【演題 4】琉球大学における地域医療教育の取り組み
琉球大学医学部附属病院地域医療部
武村克哉　先生

休　憩　（10分間）

【演題 5】宮崎県における医学教育の夜明け
宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座
早　川　学

【演題 6】地域医療実習による医学生の意識変容と実習項目の経験・到達度
大分大学医学部附属地域医療学センター
阿部　航　先生

【演題 7】熊本大学医学部の卒前教育における地域医療教育の現状と将来展望
熊本大学医学部附属病院地域医療支援センター
谷口純一　先生

１７：３５～１７：５０　　総合討論

１７：５０～１８：００　　閉会の挨拶

九州地域医療研究会　　会　長
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科国際島嶼医療学講座　教授
嶽崎俊郎　先生

参加者の皆様へお願い

1．受　付

14：30 から会場前にて行います。受付でネームプレートをお受け取りください。
また、懇親会に参加される方は、受付の際に会費 5,000 円をお支払いください。

2．参加者の皆様へお願い

ご発言・ご質問は座長の許可を得たうえで、所属と氏名を明言していただきますようお願いいたします。

3．演題発表

発表時間は 10 分、質疑応答時間は 5 分です。時間厳守でお願いいたします。

4．演者の方へお願い

動作確認のため、当日スライド受付は研究会 30 分前までにお済ませください。
原則として PC プレゼンテーションといたします。Windows の Power Point でご発表ください。
USB メモリーにてご持参ください。
それ以外での発表をご希望される方は、事前に事務局までご連絡ください。

会場案内

抄　　録

【演題１】

地域連携を基盤にした地域医療教育と研～長崎大学の 10 年の歩みとこれから～

○門田耕一郎（かどた　こういちろう）[1)]、永吉真子[1)5)]、清水悠路[1)]、山梨啓友[2)]、小屋松 淳[2)]、濱口由子[4)]、牟田久美子[4)]、松坂雄亮[4)]、植木郁子[4)]、石居公之[4)]、久芳さやか[4)]、中桶了太[3)]、永田康浩[4)]、調 漸[3)]、前田隆浩[1)2)5)]

１）長崎大学大学院医歯薬学総合研究科社会医療科学講座地域医療学分野
２）同　離島・へき地医療学講座
３）長崎大学病院へき地病院再生支援・教育機構
４）同　地域包括ケア教育センター
５）長崎大学　革新予防医科学教育研究拠点　予防医科学研究所

長崎大学は、平成 16 年の「離島・へき地医療学講座（離島医療研究所）」開設を皮切りに、「大学病院へき地病院再生支援・教育機構(平成 17 年～)」、「地域医療学分野(平成 24 年～)」、「地域包括ケア教育センター(平成 25 年～)」、「予防医科学研究所(平成 26 年～)」を相次いで開設し、卒前・卒後・大学院を通して一貫した地域医療教育・研究を進めてきた。

卒前教育では、医学科 1～4 年次の早期体験実習とワークショップ、地域枠 1 年次の「地域医療ゼミ」、2～4 年次の「医学ゼミ」、5 年次の「離島医療・保健実習」「地域病院実習」、6 年次の「高次臨床実習(地域病院・離島病院)」を行い、6 年間を通した実践的な地域包括医療教育に取り組んでいる。

卒後教育では、離島や県北の初期・後期地域医療研修に力を入れており、平成 25 年度には「ながさき県北地域医療コンソーシアム」を開設し、教育を切り口に地域の医療機関との連携による地域医療再生の取組が始まった。さらに、五島市に予防医科学研究所を開設し、主に生活習慣病をテーマとした研究と大学院教育を充実させるとともに、多分野にわたって地域との本格連携を進めている。

平成 25 年度の文科省企画に採択された事業「つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築」も加えて、地域ニーズに応える地域医療人育成と研究を今後さらに充実させていく方針である。

【演題２】

九州大学医学部における地域医療実習への取り組み

○貝沼茂三郎（かいぬま　もさぶろう）
九州大学大学院医学研究院地域医療教育ユニット

九州大学医学部では平成 24 年 5 月に地域医療教育ユニットを設置し、卒前の地域医療実習の充実を図ることとなった。昨年度は 5 年次に 2 日間の学外での地域医療実習を行い、6 つの地域病院と 8 つの診療所・クリニックで医療面接ならびに身体診察、訪問診療、訪問看護、介護施設見学、緩和ケア病棟での実習などを行った。なお平成 24 年度に行った地域医療実習未経験の 6 年生に行ったアンケート結果から在宅医療に関する理解が不足していることがわかったため、2 日間の実習中で必ず訪問診療に同行することができるよう改善した。

6 年次の選択臨床実習は、昨年度から福岡県郊外の 5 つの地域病院で 4 週間の地域医療実習を行っている。昨年度は 6 名が地域医療実習を選択したが、全員が地域医療や多職種間における連携などについて理解を深めた。実習内容としてはより診療参加型とし、さらには保健所実習を通して、その地域での保健所の役割について理解を深めている。また各人が興味のあるテーマについて住民対象に健康講話を行い、地域住民の方々とのコミュニケーションをとることでその地域に関しての理解を深めることができるような実習も行っている。

【演題３】

鹿児島大学の地域医療教育への取り組み

○根路銘安仁（ねろめ　やすひと）、大脇哲洋、網谷真理恵、嶽崎俊郎
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科離島へき地医療人育成センター

地域で働く医師を育てるには、地域にしかないものを学生時代に体験させることが重要である。

鹿児島大学は、平成 19 年度より国際島嶼医療学講座により医学部 6 年生全員に離島を中心とした離島・地域医療実習を開始した。また、離島へき地医療人育成センターの設置に伴い、地域枠学生へ更なる地域医療教育を平成 20 年度より開始した。年間 3〜4 回の地域医療講演会、1・3 年生への離島医療実習、2 年生への関連地域医療研究を実施し、更に平成 24 年度からは 4・5 年生へ鹿児島の医療を比較することで深く理解するため、県外を含む希望地域医療実習を開始した。一方、公募で興味のある全国の医学生に対し離島実習を平成 20 年より、鹿児島大学医学科・歯学部・保健学科の希望する学生に多職種医療実習を平成 22 年度より開始した。

地域医療実習では、地域でこそ職種ごとに顔が見えて理解しやすい「多職種連携」、医療だけではなく社会環境や雇用、教育状況などが地域住民の健康を左右するということを実際に体験することで「健康の社会的決定要因」を学んでもらいたいと考え内容を計画している。

これまでの実習実施においての問題点として、実習適地を見つけることが難しいことである。例えば、鹿児島大学医学科・歯学部・保健学科の学生に多職種医療実習を行っていた非常に良い教育環境の地域が、中心となる医師の退職により環境が変わり実習できなくなってしまった。現在の解決策は見つかっていないが、新たな実習適地を探索中であり地域と連携して形成していくことも試みている。

新たな試みとして、本年度より実習に際してポートフォリオの導入を計画している。これまでの実習レポートに加え、「多職種連携レポート」、「主治医意見書作成」、「意義深いイベント（Significant Event Analysis（SEA））」、「ライフストーリ聴取」の 4 項目から 2 項目を実習先の先生方と相談して作成することにした。これにより、学生には実習での気づきや振り返りの助けとなり、指導者にも具体的な指導点が分かることになることを期待している。本年度の試験導入により改良を行っていく予定である。

【演題４】

琉球大学における地域医療教育の取り組み

○武村克哉（たけむら　かつや）
琉球大学医学部附属病院地域医療部

沖縄県は 39 の有人離島を有する島嶼県であり、医師の地域偏在や診療科偏在は喫緊の課題である。琉球大学では、医学生の時期から離島地域医療への意識・意欲を育むために、2006 年、医学科 4 年生全員を対象に宮古・八重山・久米島にて 5 日間の「離島病院実習」を開始した。2009 年からは沖縄本島北部の病院を実習先に加え、現在「離島地域病院実習」として毎年継続して実施している。学生は、各病院につき 2 人〜6 人ずつの班に分かれ、当該病院の実習カリキュラムに沿って実習を行っている。学生へのアンケート調査の結果、離島地域医療への意識は経年的に高まってきている。4 年次後半からの臨床実習では、医学教育モデルコアカリキュラムに則り、訪問診療を含む地域医療実習を 5 日間実施している。これらの他、地域枠学生や地域医療に関心のある学生を対象に、沖縄県内の離島および沖縄本島北部地域の診療所を中心に、他学科の学生も交えて 2 泊 3 日のフィールドワークを行なう「学生企画地域医療を学ぶための学生セミナー」、学生チューターによる「地域医療を学ぶための PBL」などを実施し、地域医療に必要な能力の育成に努めている。

今回の研究会において我々の取り組みを紹介するとともに、課題を議論し、今後の地域医療教育のさらなる充実を図りたい。

【演題５】

宮崎県における医学教育の夜明け

○早川　学（はやかわ　まなぶ）、飛松正樹、松田俊太郎、長田直人
宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座

宮崎県は全国でも有数の医療過疎地であり、多職種と連携しながらあらゆる医療現場に対応できる「地域総合医」の育成が重要な課題となっている。宮崎大学医学部付属病院の初期臨床研修医は例年 30 名前後であり、卒後 3 年目の県内定着率は 75%程度で経過している一方で、県内の地域医療に従事する医師数は減少傾向にある。その解決策として地域における卒前・卒後教育の充実が図れており、その一つが宮崎県立日南病院の地域総合医育成サテライトセンター開設である。2013 年 4 月の同センター開設以来、充実した初期・後期研修医に対する地域・総合医療教育が行なわれているが、医学部生に対する地域医療教育はこれまで 1 年生と 5 年生に対して座学を中心とした講義があるのみであった。

しかし、いよいよ今年度から 1～4 年生に対して通年で地域医療に関する講義が行われるようになり、5 年生全員に対する地域医療実習が、日南市内を中心とした医療機関 11 施設で 3 日間の日程で開始されるようになった。宮崎県においても、学生～後期研修医に対する地域総合医育成のための一連の教育が可能な状況となり、この医学教育の夜明けの時を、具体的なカリキュラムを紹介しながら発表する。

【演題６】

地域医療実習による医学生の意識変容と実習項目の経験・到達度

○阿部　航（あべ　こう）
大分大学医学部附属地域医療学センター

【目的】

地域医療実習前後に実施した過去３年間の学生アンケート結果を解析し、地域医療に対して前向きな変化を示したグループが有していた因子について検討した。

【方法】

①対象は平成 23 年から平成 25 年までの間、地域医療実習を受けた、6 年次生 273 名（男性 176 名、女性 97 名）とした。②調査方法は実習の前後でアンケートを配布、記入後に回収した。(③解答方法は、Visual Analogue Scale を使った統計処理を行った。④各質問項目について、結果を実習前後で比較した。⑤実習後にポジティブな変化を示したものについて、影響した因子について多変量解析を用いて検討した。

【結果】

地域医療に対するイメージや地域医療への従事意欲は、往診・在宅診療や住民との懇談、病棟実習や医師の偏在（地域・診療科）、医療・保健・福祉・介護の連携などの経験・到達度が高いほど良くなっていた。当日はその他の項目についても併せて発表する予定である。

【考察】

医学生は実習項目の経験・到達度により、特定の意識変容が起こっている可能性が示唆された。特に地域医療に従事してみたい、やり甲斐を感じるといった好ましい行動変容を促したと思われる実習項目が推察されたことは、今後の地域医療実習のプログラムを考える上で、重要と思われる。

【演題７】

熊本大学医学部の卒前教育における地域医療教育の現状と将来展望

○谷口　純一（たにぐち　じゅんいち）
熊本大学医学部附属病院地域医療支援センター

熊本大学医学部では5年前の2009年に「地域医療システム学寄附講座」が設置され、同年に県の就学資金貸与生制度の導入、更に翌年、地域枠入学制度が開始された。新カリキュラム導入前であり、その後、正規のカリキュラム内での新しい地域医療教育はなかなか難しい状況もあったが、公衆衛生の授業枠内で、授業を実施した。また、夏休み等にカリキュラムの枠外で地域医療実習を毎年実施し、自治医大生と合同で行なう様になった。2013年度からは、クリニカルクラークシップでも地域医療実習を組込む事が出来る様になり、希望者に対し実施可能となった。また、地域医療ゼミを１回／月開催し、様々なテーマで各学年の地域枠入学者や他の希望者を対象に、学生による地域医療の自主的な学習を行なってきた。2014年度入学者から、新カリキュラムとなり、地域医療の教育をより充実させる予定となった。また、地域医療システム学寄付講座の特任教授も同年度に交代し、同時に別途「地域医療支援センター」が設置され、卒前から卒後にかけて連続性のある教育を実践していく体制が整ってきている。5年間の地域医療システム学寄付講座等の活動を振り返り、これからの地域医療関連の教育体制に関してその展望を検討する事とした。